

Mifa



MIFA NEWS

No. 43

12/25. 2005

Moriya International Friendship Association

守谷市国際交流協会広報委員会発行

事務局 住所：守谷市大柏950-1
電話：0297-45-1111

URL: <http://www.fureai.or.jp/mifa>



MIFAフェスタで若柳流・若柳秀寿社中による踊りに見入るJICA研修員

2005年度4月～12月の主な事業

- | | |
|---|-------------------------------|
| 4.23 MIFA理事会 | 8.27～28 JICA研修員ホームステイ |
| 4.23 JICA国際交流広場参加 | 9.21 第32回外国人のためのボランティア日本語講座開講 |
| 5.22 MIFA総会 | 10.1 ラオスプロジェクト研修員来市 |
| 6.4 青少年海外派遣事業事前研修参加 | 10.2 MIFAフェスタ2005 われら地球人 |
| 6.12 アヤメ祭り参加 | 10.23 MIFAサロン「ウォーキング&バーベキュー」 |
| 6.17～23 グリーリー市高校生来市（6.18 青年交流委員会とボウリング交流） | 10.24 英会話初級講座開講 |
| 7.10 MIFAサロン「フラダンスからハワイ文化の奥深さを知ろう」 | 11.3 エチオピア大使講演会&コーヒーセレモニー |
| 7.25 総和町国際交流友の会来市 | 11.12・13 県民まつり「国際交流ひろば」参加 |
| 8.20・21 青年交流委員会夏合宿 | 11.27 MIFAセミナー 開発教育勉強会 |
| 8.22～29 マインブルク市助役ほか2人、グリーリー市市長夫妻来市 | 12.3 イヤーエンドパーティー |
| 8.27 MIFAニューズレターNo.42発行 | 12.6 ラオスプロジェクト最終報告会 |
| 8.27・28 TX開業記念イベント参加 | 12.7 ボランティア日本語講座修了式 |
| | 12.10～11 筑波大学留学生ホームステイ |
| | 12.25 MIFAニューズレターNo.43発行 |

MIFAフェスタ 2005

10月2日、MIFAフェスタがJICA研修員や近隣の外国人を招待して開催されました。

地域の方々の協力を得て、第一部として剣道・書道・茶道・琴の体験や昔の遊びなど日本紹介が行われ、第二部は会場を大ホールに移し、国旗の入場から始まったイベントは民族パフォーマンスの時間で、各国の文化紹介として、歌あり踊りありの楽しいひとときとなりました。

参加した人たちは、異文化に触れ、来年もまた参加したいと話していました。



参加団体

西川流宗家・西川覚、けやき台中学校、箏さくらの会、高橋香石書道社、取手市国際交流協会、野木崎お囃子連、ボーイスカウト取手第三団、ボーイスカウト守谷第一団、守谷市文化協会茶道部会表千家流藤中社中、守谷ひょうたん連、若柳流・若柳秀寿社中、そのほか市民ボランティア

ミクロネシア大使が 守谷市長を表敬訪問



10月28日、ミクロネシア連邦大使が、守谷市長を表敬訪問しました。

これは、市内在住の方との交流が縁で実現したもので、MIFAは、国際交流の市民ボランティア団体として、一緒にアサヒビール茨城工場を見学しました。

大使からは「守谷市と友好関係を築きたい」との言葉もあり、MIFAとしても交流していきたいと思えます。

MIFAコンサート

ウクライナの
民族楽器
バンドウーラ
の弾き語り



ナターシャさんは、1996年の初来日以来、チェルノブイリで被災した子どもたちの救援コンサートやさまざまな活動をしています。

美しく透明な水晶のような歌声と哀愁を帯びたバンドウーラの可憐な響きをお楽しみください。

日 時：2006年1月21日（土） 午後2時開演
会 場：守谷市国際交流研修センター（ログハウス）
出 演：ナターシャ グジー
定 員：先着100人
費 用：会員800円、非会員1,000円
申し込み：守谷市役所くらしの支援課
☎0297-45-1111（内線132,133）

TX開業記念イベント



上：式典であいさつする小川会長

下：グリーリー市長夫妻



8月27日、28日の両日、「きらめき守谷夢彩都フェスタ2005」が守谷駅前広場で行われました。MIFAは2ブースを使い、姉妹都市の紹介を中心にラオスプロジェクト・MIFAフェスタ・日本語講座の紹介など、日頃の活動紹介と姉妹都市



グッズやラオス民芸品の販売を行いました。TX開業にあわせて来市した姉妹都市の市長や助役もブースに来られ、興味深げに見入っていました。



上：左からマインブルク市のゼイビレさん、ハネローレ助役、ハンス元議員

右：姉妹都市グッズやラオス民芸品を販売。お休み処もあり、盛況でした。





JICAホームステイ

は、MIFAに割り当てられたスペースでなかったため、参加した人たちとゆっくり話ができなかったことが残念でしたが、お祭りムードに包まれた対面式は、得難い体験となり、記憶に残ることになったと思います。

二日間の短い期間でしたが、後日寄せられた研修員やホストファミリーのお礼の手紙、アンケートを見ると、東京見物に出かけたり、各々が楽しみ、有意義に過ごしたことがうかがえ、うれしく思います。

JICA研修員は、滞在期間も短く、また、日本人と接する機会も少ないとのこと。ステイ先の家庭での温かいもてなしに触れ、さらに日本に対して思いを深めてくれたのではないかと思います。

今後も、これら国際交流事業を通じて、地域社会と外国人（異文化）との相互理解と友好親善に微力ながら貢献できればと思いました。

8月27日、守谷駅前広場で行われたTX開業記念イベント「きらめき守谷 夢彩都 フェスタ2005」にあわせ、JICA（国際協力機構筑波国際センター）研修員ホームステイの対面式を行いました。例年、MIFAが国際交流の一環として行っている事業です。

JICAの研修員は、6カ国（インドネシア、タイ、イラク、東ティモール、中国、エジプト）から8人、ホストファミリーは8家庭22人でした。対面式を行ったところ

夏合宿顛末記

8月20日～21日の一泊二日で、青年交流委員会は、学びの里で合宿を行いました。今年は、例年参加していた北守谷団地夏祭りには参加せず、今回の合宿になりました。

当日は、青年交流委員11人と、今年の「守谷市青年海外派遣ドイツ留学のメンバーの中の10人、そして、日独協会主催のHallo Japanの事業の一環で、守谷市に来ていたドイツ人大学生2人も参加しました。

初めに自己紹介。そして堅苦しいあいさつが終わった後は、皆で円になってゲームを楽しみました。初対面の外国人が加わったことで、皆、初めのうちは緊張していたようですが、ゲームが進むと積極的に話をする姿も見られ、双方にとって有意義なものになったと思います。夕食をとり、花火を楽しんだころには、すっかり打ち解けていて、初めにあったドイツ人大学生、

ドイツ派遣者と青年交流委員のグループの壁もなくなっていました。その後は自由時間。ずっと起きていて喋っている人たち、すぐに寝た人などそれぞれでしたが、この半日で十分交



流が深められたことは、一目瞭然でした。翌日は、朝食の後、片付けをしてから解散でしたが、もう一泊したいという声も上がっていたようでした。

今回の合宿の目的は、委員会の親睦を深めるためと今年のドイツ派遣者に青年交流委員会の活動を知ってもらう目的がありました。合宿中は、ドイツ派遣者たちから委員会の活動についての質問もあり、青年交流委員会に興味を持ってくれた学生も多くいたようでした。このように、楽しみながら委員会を知っていったり、委員同士の交流を深めることは大事なことだと思いました。

北守谷団地夏祭りに参加できなかったのは残念ですが、この合宿で皆それぞれにたくさんことがわかったと思います。

